

アメリカの星

アメリカという名称の起源は極めて重要である。マンダヤ教はナザレ教の直系の宗教であり、ナザレ教とは、ヘロデ王の神殿の地下に秘密文書を隠したクムラン宗団と同じ集団であった。

もし、それが事実なら、「メリカ」と呼ばれる星の下にある神秘的な土地のことも、その秘密文書に書かれていたに違いない。すなわち、聖堂騎士団はこの文書を通じてこの土地のことを知り、これを発見するために西に向けて出帆した可能性が大いにある。

一般に、アメリカ大陸の名は、セビリヤに住んでいた裕福な船具商アメリゴ・ペスプッチの名から取られたことになっているが、彼の新大陸到着は1499年、コロンブスよりも7年も後のことである。

また、現在では多くのヨーロッパ人やアジア人が、コロンブスよりもはるか以前にこの大陸に到達していたことも知られている。おそらく、新大陸の名称の決定には、聖堂騎士団の末裔が関係していたに違いない。

聖堂騎士団の船は、ビスケー湾の嵐にも耐えられるように設計され、また方位磁石や天体配置を利用したその航海技術は極めて高度なものであった。

もしも彼らが「メリカの土地」のことを知っていたのなら、1307年に異端を宣告された彼らが、新世界を求めて大西洋を渡る動機は十分にあった。

(『封印のイエス』 P 106～108)

※ ここで聖堂騎士団と記されているのは Templar 騎士団のことです。